

平成 26 年度 第 2 回  
袋井市行政改革推進委員会 会議録

日 時：平成 26 年 7 月 28 日（月） 18：25 ～ 20：28

会 場：袋井市役所 5 階 第 1 委員会室

出席者：日詰一幸会長、大場規之副会長、秋山憲治委員、玉井まゆみ委員、  
寺田陽子委員、中山勝委員、西尾新太郎委員、西尾久代委員

---

<会議次第>

- 報告事項
  - (1) 行政改革推進委員会の審議内容
  - (2) 第 1 回袋井市行政改革推進委員会会議録
- 議 題
  - (1) 第 2 次行政改革大綱の策定について
    - ア 第 2 次行政改革の目指す方向性

---

<会議の概要>

第 2 次行政改革の目指す方向性について審議し、これまでの取組成果や社会の潮流、委員からの意見の情報を共有するとともに 5 つのキーワードのうち「人口減少、少子化、高齢化への対応」「民間活力の活用」「財政健全化」の 3 つに論点を絞って意見交換をした。

（委員意見）

論点 1 「人口減少、少子化、高齢化への対応」

- ・安心して子どもが産み育てられる市として定着すれば、市の活力が上がり周辺市から人が流入するのでは。
- ・人口減少の対応について人口の社会増を考えるならば、市の事業として子育て世代等にターゲットを絞るとともに、女性や若い人々にとっても魅力ある事業展開を考える必要がある。
- ・子育て世代と高齢者世代とのマッチング事業に取り組むことで相互にとっていい関係になるのでは。

論点 2 「民間活力の活用（市民・NPO・企業等）」

- ・アウトソーシングとして市では研究、試算をしているのか。
- ・指定管理者制度の費用的な効果はもとより、質の成果の検証をしてみてもは。

論点 3 「財政健全化」

- ・公共施設マネジメントや市税の収納対策を進める際には、専門性を持った職員の活用を検討してみてもは。など、様々な角度から意見が出された。

<p>会長</p>	<p><b>○ 会長あいさつ</b></p> <p>私達の所見が今後の袋井市の行政運営に対して貢献をすることができるのではないかと考えている。</p>
<p>副市長</p>	<p><b>○ 副市長あいさつ</b></p> <p>事務局として論点を絞らせていただいた。5点でこれからの行革に大きく関係してくる人口減少、少子化高齢化への対応、民間活力の活用、財政健全化で本日は委員の先生方からの忌憚のないご意見を伺う中で、袋井市の行政改革がどのようなものに挑んで行けばいいかの意見がいただけるのではないかと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p><b>4 報告事項</b></p> <p>(1) 行政改革推進委員会の審議内容</p> <p>(2) 第1回袋井市行政改革推進委員会議録</p>
<p>事務局</p>	<p>個別テーマの公開討論会はどのようにある予定なのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>行政改革推進委員会の場を公開していく。</p>
<p>会長</p>	<p>議事録はホームページにアップしてよろしいか。</p>
<p>委員</p>	<p>異義なし。</p>
<p>副会長</p>	<p><b>5 議題</b></p> <p>(1) 第2次行政改革大綱の策定について</p> <p>ア 第2次行政改革の目指す方向性 (論点1 「人口減少、少子化、高齢化への対応」)</p> <p>スライドナンバー5の平成26年度の15～19歳人口が11年後、25～29歳になると思うが人数が非常に増えている。人口流動性が少ないとするならばこの山が11年後の15～19、10～14歳のところにあってもいいと思う。地域の子供達の流動性や産業人口の流動性の傾向からこのようなことがいえるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>コーホート要因法という人口推計の用法を用いている。10年間を予想し統計的にこのような結果となった。</p>

委員	<p>子育て支援事業については、袋井市は他の市に比べて素晴らしいと思う。保育園・幼稚園の新設等の取り組みを今後も進めていけば、子育てに適した市ということで他の市からの流入も今後あると思う。魅力的な子育ての市というのが定着すれば良いと思う。</p>
会長	<p>子育てのまちをアピールする中で周辺市から流入人口を招き、市の活力になり税収増にも繋がる可能性があると思う。お金がかかるが逆に人口が増に向かう可能性あるのではないかと思う。保育園・幼稚園の園庭の芝生化について、芝生の手入れはどのようにやっているのか。</p>
事務局	<p>基本的には父兄に出ていただき、経費をかけずに維持をしている。</p>
会長	<p>綺麗な状態を維持するための財政上の問題があると思うが地域の方々や受益者に関わっていただくというのは必要だと思う。</p>
委員	<p>袋井市は今まで住宅・宅地の供給を増やしてきたが、人口の社会増のターゲットは、小さな子供を持つ親や子どもを持つ可能性のある年齢層である。子育てがしやすいまちかどうかというのも一つあるが、若い年齢層自身にとっての魅力も考える必要もある。若い年齢層にとっての魅力を打ち出して社会増を図る必要があると思う。転出による社会減を抑制するのは難しい。自然増と社会増でターゲットとする年齢層は重なる。年齢層の重なりがポイントで、社会増を狙う時の年齢層は子育て世代以外、違う観点も考えたほうが良い。</p>
事務局	<p>区画整理事業を市内各所で展開してきた。若い人たちが買いやすい価格設定を考えた。今、現在は人口減という情勢の中で転入者も見込めず、区画整理事業そのものもほとんどやっていない。</p> <p>現在、転出者を対象に調査をしている。袋井に転入されてきた方の意見や特に若い世代の方のご意見も伺うような取組も必要であると思っている。</p>
委員	<p>長野県のある町を調査し、地元の産業を育成した若者たちが一</p>

	<p>時注目を集めた。一時的には若い人が集まったが様々な理由ででいてしまった。他の条件で魅力に欠けていたと思う。</p>
会長	<p>袋井には理工科大学もあり、若い人たちをいかに市の中に吸収するかが課題だと思う。若い力は、今後非常に重要であり、取り組みの中の目玉や他と合わせて取り組まれたらと思う。</p>
委員	<p>幼稚園等の運営は民間か公設か。</p>
事務局	<p>山梨幼稚園は公立。区画整理事業等で幼児の数が増えたため、規模が大きい。愛野こども園、あそび学園については民間の経営で建設費や運営費の補助という形でサポートしている。</p>
委員	<p>市の方向性として公設でいくのか民営でいくのか。袋井市は女性の人口割合が県下で一番高い数字であり、大事にする部分がある。都会でも女性に魅了のある街であると非常に栄えている。女性に魅力のある町づくりをしていくことが重要である</p>
会長	<p>コンセプトとして若者と女性に選ばれる町は大事だと思う。</p>
事務局	<p>若者や女性の魅力について政策的に展開することは意識的にはやっていない。本日のご意見を総合計画のほうに繋げていく必要があると思う。幼稚園の経営等は子育て支援計画を策定する中で検討する。</p>
委員	<p>女性、子育て世代と高齢者がマッチングとして子どもを高齢者が預かるような施策はあるのか。高齢者の生きがい、地域の信頼関係などの相乗効果が出てくると思う。</p> <p>スマートウェルネス構想等、健康のための市との関わりを持つ事業が全国各地で展開されているため、袋井市にあってのものを選択して実施すれば、民生費のほうも下がってくると思う。</p>
委員	<p>子育て世代と高齢者をマッチングさせる組織があればいいと思う。高齢者が安い料金で健康に気をつけて病気にならないよう利用できる施設があるといいと思う。0歳～3歳の子供を安心して</p>

	産める袋井市であれば人の流入もあり、市の発展に繋がっていく。
会長	高齢者と子育て世代のマッチングはお金をかけることなく双方にとって良い。予防として初期投資になるが、逆に将来的にみると、医療費や介護費用の低減化に繋がると思うため、取り組みをご検討いただければと思う。安心して子供を産み育てられる袋井市になっていくということが今後も大事である。
	<b>(論点2 「民間活力の活用(市民・NPO・企業等)」)</b>
会長	PFIの事例はどの程度あるのか。
委員	市民体育館が非常に老朽化し、建て替え計画の基本設計・基本計画において新しい手法を取り入れるため、PFI手法の可能性調査、基本計画の作成の委託発注をした。経費の削減やサービスの向上を期待し進めている。初めてPFIに取り組みつつある。
委員	指定管理者制度の導入ということで、例えば、直営と指定管理者制度の費用効果の差等の試算はされているのか。モニタリングをしていくことも重要。モニタリングも含め指定管理者制度の在り方についてどういうふうに捉えているか。
事務局	効果額は調べ、次回回答する。平成25年度の実績は11グループ32施設で実施し、人件費的な部分が効果額として大きな要素となる。直営でやった場合と比較をして数字をお示ししていきたい。
委員	市民の団体等の活力を活用する際の法人格の有無ってというのはどういう扱いになっているのか。
事務局	市内に175の自治会があり、法人化に向けての形で進めている。
委員	自主的な団体との連携・協同はどのように対応しているのか。
事務局	基本的にはケースバイケース。民間の方に委ねられるものは民間という方針である。

委員	自治会で早くインターネットの環境を作りたいと話している。農業委員の問題が地域ですでている。農業従事者が毎年減っているが、地域の実情を市は把握しているか。
事務局	農業委員会は法律で設置が義務づけられている行政委員会で報酬も出し、所定の業務をやっている実情を農政課は承知をしている。農業従事者が高齢化し、新規就農者が減少している中で都市化が進んできた地域の委員選出は難しいという現状を承知した中で要請していると思う。いろいろな情勢に対応したような行政のあり方という観点で受け止めていきたい。
委員	農業委員は選挙に則って行われているという組織である。部農会は市から委嘱があり、農業委員の幹部組織になる。農協は選挙に関われないため、協力組織という中で国の方針を待ち、準備をしている段階である。
副委員長	アウトソーシングについて、行政の実務・業務・管理等の例や効果について研究はされているか。導入した場合の効果や試算はされているのか。
事務局	市民課、税務課の窓口業務は直営でやっている。県下、全国的にも、窓口業務を民間の方に委ねて民間委託をしている所は多い。県内でも掛川市や磐田市は窓口業務の民間委託という話も出ているため、西部では袋井と浜松ぐらいしかないのではとの認識である。担当課において、民間委託した場合、サービスや費用対効果的な部分、民間に委託した場合のメリット、デメリットについて検討している段階である。行革の進展を見ながら、さらに深く検討したい。
副会長	指定管理者制度導入して10年以上たつが、袋井市の指定管理者制度が他市町村と比較した場合、質でどうなのかという声も聞かしている。指定管理者制度の過去10年の成果、金銭的な成果だけではなく質という意味での比較も他市町村としていただきたい。資料も提出いただきたい。

委員	窓口業務の民間委託はどのようにするのか。
事務局	委託先と契約を取り交わす。個人情報の厳守ということで委託契約を結ぶ。個人情報の重要な取扱は正規の職員、住民票を発行する事務処理では窓口業務を民間委託する傾向にある。
委員	<p>商工会議所からまちづくり会社を作りたい、資金を出してもらいという話を聞いている。市の関連性を聞きたい。</p> <p>また、袋井市に道の駅はできないのか。</p> <p>農業者が高齢化になっているが農業に従事する楽しみはあると思う。市内にも企業経営している直売所もある。まちの賑わいを作るための努力は大切で、様々な形でまちに活力を与えると思う。</p>
事務局	<p>商工会議所の関わりは特別目的会社を作り、主体的に公的な部門にも関わり、現在、金融機関と一緒に仕組みを検討中ということを知っている。市の出資等はこれからという認識でお願いしたい。</p> <p>道の駅についての民間か公の判断はケースバイケースであり、研究課題である。</p>
	<b>(論点3 財政健全化)</b>
委員	ファシリティマネジメントについて更新費用を積算するなどの土木関連技師職員はいるのか。
事務局	<p>今年度、施設についての経過や建設年度、修繕状況を含め精査をしており、今後、建物を維持していくための費用を積み上げ、30年、40年後の維持費がかかるかをまとめる作業をしている</p> <p>評価方法には、庁内において技術職、事務職も含め検討会を設けている。</p>
委員	他の市町では職員を削減する中で、技術職を減らす部分がある。査定や自ら再検査ができなくなるため、人数を維持する形で進んでもらったほうが良い。
委員	税の収納率はどのくらいになっているのか

事務局	<p>現年の徴収率は、98.7%でほとんど100%近い数字である。滞納率は低く、アクションプランを作り努力をしている。</p>
委員	<p>滞納整理はどのように実施しているか。</p>
事務局	<p>税金の徴収は、基本的に税務課収納対策室職員が徴税吏員として携わっている。困難事案は滞納整理管理機構へ委託をし、県財務事務所でも一部対応している。11月から12月ごろ、収納強化月間として県下一斉、市独自でも実施している。</p>
委員	<p>機構に職員を派遣してノウハウを活用したり、臨時職員を税務署職員に依頼し、収納率をあげていけば良いと思う。</p>
委員	<p>ふるさと納税について磐田市の良い評判を聞く。袋井市でも納税者に魅力ある商品から送ることから始めてもらいたい。</p>
事務局	<p>袋井市も特産品の詰め合わせをお礼として送付している。</p> <p>ふるさと納税は都会にお金が出ていくことを解消するためにできた制度で、最近、自治体間の奪い合いになっている。本来、都会に流れたお金が地方へという目的であるため、それらを踏まえ、積極的に取り組んでいきたい。特産品PRはバランスをとり、産業振興等施策で実施していくスタンスでいる。</p>
委員	<p>既存産業の振興についてどのように考えているか。</p>
事務局	<p>財源の確保ということで法人関係では法人市民税が代表される。既存産業の振興として大企業、小規模事業所は相互に関係性があり、市で事業活動している全て企業を大事にしていきたい。</p>
委員	<p>視点（フィルター）は次回の議論になるのか。</p>
事務局	<p>そうである。5つのテーマを設定した中で、大綱策定に向けて、一つの案を提示させてもらった。次回、委員に皆様方と議論を深めてまいりたい。</p>
	<p>以 上</p>



